

- 問1 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、中国を統一した隋の高度な制度や文化を取り入れるために使節を派遣しました。607年にこの使節（遣隋使）として中国へ渡った人物の名前として正しいものはどれですか。（2022年 栃木県公立入試 類似）
1. 足利義満
 2. 鑑真
 3. 小野妹子
 4. 中大兄皇子
- 問2 飛鳥時代の政治制度の変遷を整理した資料において、戸籍の作成や大宝律令の制定と並んで「十七条の憲法」が記述されています。この法の内容や特徴について正しく述べたものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）
1. 仏教や儒教の思想に基づき、役人が守るべき道徳や心得を全十七条にわたって記した。
 2. 武家社会の慣習法を整理し、幕府が御家人を統制するための裁判基準を定めた。
 3. 浄土信仰の広まりを背景に、貴族から庶民までが等しく守るべき救済の教えをまとめた。
 4. 鑑真が伝えた戒律をもとに、僧侶が守るべき厳格な修行の規則を体系化した。
- 問3 聖徳太子が小野妹子を隋へ派遣した「遣隋使」の目的や当時の外交方針について述べた説明として、最も適切なものを選びなさい。（2026年 長野県公立入試 類似）
1. 中国の皇帝から王としての称号を授かり、その権威を背景に国内の豪族を統制しようとした。
 2. 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、先進的な制度や仏教などの文化を吸収しようとした。
 3. 平城京の造営にあたり、隋の都である長安の都市計画を学ぶための専門家を招聘しようとした。
 4. 朝鮮半島の百済が新羅に圧迫されていたため、隋の軍事力を借りて半島での勢力を回復しようとした。
- 問4 645年に中大兄皇子らが中心となって始まった大化の改新の後、日本は朝鮮半島での戦いに敗れ、外交・国防上の大きな転換期を迎えました。この時期の出来事について述べた文として最も適切なものはどれか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで新羅を援護して唐を退けた後、百済との同盟を強化して朝鮮半島での権益を拡大した。
 2. 白村江の戦いの敗北を受けて、地方を統治する国司の権限を大幅に強め、各地方の豪族に独自の軍事権を与えた。
 3. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した後、侵攻に備えて九州に水城を築き、都を近江大津宮へ移した。
 4. 唐や新羅の脅威に対抗するため、中大兄皇子は天皇への即位を辞退し、蘇我氏とともに集団指導体制を敷いた。
- 問5 奈良の法隆寺が建立された時期に、聖徳太子が主導して進めた政治改革についての記述です。家柄に縛られた従来の政治を改め、実力ある人物を登用するために制定された制度を次から選びなさい。（2016年 千葉県公立入試 類似）
1. 冠位十二階
 2. 大宝律令
 3. 十七条の憲法
 4. 班田収授法
- 問6 645年に中大兄皇子と中臣鎌足らが蘇我氏を倒して始まった、天皇中心の国造りを目指す政治改革において、日本で初めて定められた元号は何ですか。（2019年 熊本県公立入試 類似）
1. 大化
 2. 大宝
 3. 白雉
 4. 建武
- 問7 672年に発生した古代日本最大の内乱である「壬申の乱」は、どのような状況下で起こった出来事ですか。その背景として最も適切な説明を選びなさい。（2019年 香川県公立入試 類似）
1. 聖徳太子の死後、蘇我氏が政治の実権を握り、独裁的な政治を行ったことに不満が募った。
 2. 大化の改新を進める中大兄皇子に対して、旧勢力の貴族たちが一斉に反旗を翻した。
 3. 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐる、天皇の弟と子の間で争いが起きた。
 4. 唐と新羅の連合軍に敗れた後、国防体制の整備をめぐる朝廷内が二つの勢力に分かれた。
- 問8 古代の日本において、唐の制度を参考に「律令」が制定された主な目的として、最も適切な説明はどれですか。当時の地方行政の状況を伝える多胡碑などの記録を踏まえて考えなさい。（2016年 群馬県公立入試 類似）
1. 武士の勢力を抑えるために、有力な貴族に地方の土地を自由に管理させるため
 2. 天皇を頂点とし、法に基づいた行政区画の整備を通じて中央集権的な統治を行うため
 3. 仏教の教えを広めることで、人々の不満を抑えて社会の安定を図るため
 4. 外国との貿易を促進するために、港を中心とした新しい都市を建設するため
- 問9 飛鳥時代、推古天皇の摂政として政治を行い、国をまとめるために仏教を厚く敬うよう説いた人物は誰ですか。現存する世界最古の木造建築物とされる法隆寺を建立したことで知られる人物を選んでください。（2018年 岩手県公立入試 類似）
1. 足利尊氏
 2. 藤原道長
 3. 中臣鎌足
 4. 聖徳太子
- 問10 「第一条に、和をなによりも大切なものとする」「第二条に、仏・法・僧の三つの宝を敬うこと」「第三条に、天皇の命令を承ったときは必ず謹んで従うこと」といった内容が記されている資料の、歴史的な背景として最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）
1. 遣唐使によってもたらされた最新の法律制度をそのまま導入し、法治国家を目指した。
 2. 武士が政治の実権を握ったため、朝廷の権威を取り戻すための軍事的な規則を定めた。
 3. 仏教を国教として定め、寺院が政治に介入することを認める特権を与えた。
 4. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。
- 問11 飛鳥時代の政治において、蘇我氏が物部氏との争いに勝利し、仏教の布教を強力に推し進めた背景として最も適切な理由はどれか。（2022年 岩手県公立入試 類似）
1. 遣唐使を通じて、中国の律令制度をそのまま日本に定着させるための宗教儀礼とするため
 2. 武士の時代の到来に備えて、独自の軍事組織を仏教の教えによって編成するため
 3. 古来の神道を信じる地方豪族を武力で圧倒し、全国の土地を国有化するため
 4. 仏教とともに大陸の進んだ技術や制度を導入し、一族の政治的地位を高めるため
- 問12 天智天皇の死後に発生した大規模な後継者争いである壬申の乱に勝利し、即位したのち、天皇を中心とする強力な中央集権国家の体制を整えた人物を次の中から選びなさい。（2025年 栃木県公立入試 類似）
1. 聖武天皇
 2. 桓武天皇
 3. 天武天皇
 4. 推古天皇
- 問13 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇を助けて政治を行っていた時期に、中国大陸や朝鮮半島の強い影響を受けて成立した、日本最古の仏教文化を何と呼びますか。（2019年 滋賀県公立入試 類似）
1. 飛鳥文化
 2. 国風文化
 3. 白鳳文化
 4. 天平文化
- 問14 聖徳太子が定めた冠位十二階について、この制度が目指した内容を説明したものとして正しいものを選びなさい。（2022年 高知県公立入試 類似）
1. 一度授けられた位は子孫に受け継がれることを原則とした。
 2. 全ての国民を戸籍に登録し、口分田を割り当てるための基準とした。
 3. 地方の豪族を「国司」として任命し、土地と人民を直接支配させた。
 4. 個人の能力や功績に応じて、色の異なる冠を授けて役人の位を区別した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 小野妹子	聖徳太子は、中国の「隋」に「遣隋使」を派遣して大陸の優れた文化や政治制度を学ぼうとしました。607年には小野妹子が使節として送られ、隋の皇帝である煬帝に国書を届けました。これ以前の時代のように中国の皇帝に臣下として仕えるのではなく、主権国家として交流を図ろうとした重要な出来事です。
問2	答え 1 仏教や儒教の思想に基づき、役人が守るべき道徳や心得を全十七条にわたって記した。	十七条の憲法は、現代の憲法のような統治の仕組みを定める法律とは異なり、役人の精神的な心構えを説いた「教訓」としての性格が強いものです。飛鳥時代に導入された大陸の思想である儒教（礼儀や秩序）と仏教（慈悲の心）を融合させている点が、当時の文化的な特徴を反映しています。最澄や空海、鑑真などはより後の時代に活躍した人物であり、時代背景の混同に注意が必要です。
問3	答え 2 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、先進的な制度や仏教などの文化を吸収しようとした。	聖徳太子による遣隋使の派遣は、それまでの「貢ぎ物を届けて地位を認めてもらう」形式から、中国と対等な立場で国交を結ぼうとする姿勢への転換を意味していました。小野妹子が持参した「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」という国書の内容は、隋の煬帝を驚かせたと記録されています。
問4	答え 3 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した後、侵攻に備えて九州に水城を築き、都を近江大津宮へ移した。	中大兄皇子は百済復興のために軍を派遣しましたが、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗しました。その後、日本への侵攻を恐れた中大兄皇子は、九州に防衛施設である水城や山城（朝鮮式山城）を築き、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移して防衛を固めました。天智天皇として即位するのもこの時期のことです。
問5	答え 1 冠位十二階	聖徳太子が活躍した飛鳥時代初期、法隆寺の建立と並行して様々な政治改革が行われました。その中でも、氏姓制度のように家柄で役職が決まる仕組みではなく、個人の才能や功績によって役人を取り立てる画期的な制度が「冠位十二階」です。これは、能力のある人材を確保し、天皇を支える役人を育てる狙いがありました。
問6	答え 1 大化	蘇我入鹿を倒した乙巳の変に続く政治改革の中で、日本で初めての元号として「大化」が定められました。これは、天皇が時間をも支配するという東アジアの統治思想に基づき、日本が独立した国家としての体制を整え始めたことを象徴しています。中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）はこの改革を通じて、豪族による政治から天皇を中心とする中央集権的な政治への転換を図りました。
問7	答え 3 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐって、天皇の弟と子の間で争いが起きた。	天智天皇の跡継ぎをめぐり、弟の大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立したことが原因です。この争いに勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇を中心とした律令国家体制の整備をさらに加速させることになりました。
問8	答え 2 天皇を頂点とし、法に基づいた行政区画の整備を通じて中央集権的な統治を行うため	律令の整備は、それまでの豪族による土地・人民の支配を改め、天皇を中心とする国家が全国を直接支配すること（中央集権化）を目的としていました。多胡碑に記された「郡」の設置も、この法律に基づいて全国を組織的に管理しようとする政策の一環です。これにより、税の徴収や徴兵などが組織的に行えるようになりました。
問9	答え 4 聖徳太子	推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）は、仏教を深く信仰し、政治の柱に据えました。その象徴として奈良県に法隆寺を建立し、仏教の教えを通じて豪族たちの対立を抑え、天皇を中心とした国づくりを目指しました。中臣鎌足は大化の改新、足利尊氏は室町幕府の創設、藤原道長は平安時代の摂関政治に関わる人物です。
問10	答え 4 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。	当時の日本は有力な豪族が勢力を争っており、政治の混乱が続いていました。聖徳太子は、役人が守るべき道徳や心得を示すことで、豪族たちの対立を抑え、天皇を中心としたまとまりのある国を作ろうと考えました。仏教や儒教の教えが取り入れられているのは、それらが普遍的な倫理観として、豪族を教化し国家を統合するのに適していたためです。
問11	答え 4 仏教とともに大陸の進んだ技術や制度を導入し、一族の政治的地位を高めるため	当時の仏教は単なる信仰対象だけでなく、大陸の最新の学問や建築技術、外交知識とセットで伝来しました。蘇我氏はこれらの先進文化を独占的に取り入れることで、伝統的な神事を重視し仏教排除を主張した物部氏を圧倒し、朝廷内での主導権を握ろうとしました。
問12	答え 3 天武天皇	天武天皇は、大海人皇子として壬申の乱で大友皇子（天智天皇の子）を破って即位しました。即位後は、官僚組織の整備や「天皇」という称号、「日本」という国号の使用を開始するなど、律令国家としての基盤となる中央集権的な仕組みを強力に推進しました。
問13	答え 1 飛鳥文化	聖徳太子が活躍した時期の文化は飛鳥文化と呼ばれます。大陸から伝わった仏教を国の政治に取り入れ、法隆寺などの寺院が建立されたことが特徴です。白鳳文化は7世紀後半、天平文化は8世紀（聖武天皇の時代）、国風文化は平安時代中期（藤原氏の全盛期）の文化であり、それぞれ特徴が異なります。
問14	答え 4 個人の能力や功績に応じて、色の異なる冠を授けて役人の位を区別した。	冠位十二階は、役人に色のついた冠を与えることで、その序列を明確にした制度です。これは世襲制であった氏姓制度とは異なり、個人の功績を評価する仕組みであり、翌年に定められた「十七条の憲法」とともに、役人の規律を正し、中央集権体制を整える役割を果たしました。